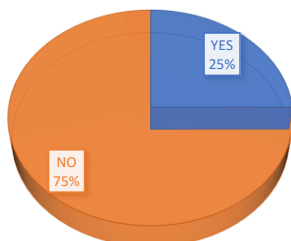


■■鋼構造におけるレーザー孔明けに関するアンケート■■ (設計会社・ゼネコン)

【調査期間】 2021年10月29日～2021年11月12日

【調査対象】 設計会社 4社、ゼネコン 7社、検査会社 1社

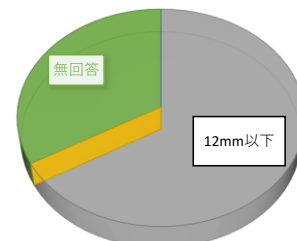
Q1.レーザー孔を採用したことがあるか？



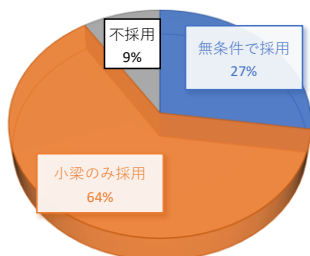
Q2.採用部位は？
(Q1で「YES」の方のみ)



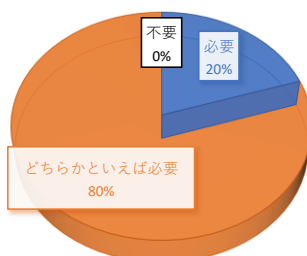
Q3.採用した最大板厚は？
(Q1で「YES」の方のみ)



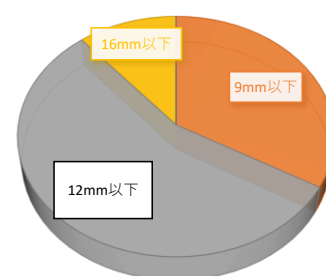
Q4.ファブから採用依頼があった場合の対応は？



Q5.採用に当り試験は必要か？



Q6.採用可能な最大板厚は？



◆採用するための条件とは？（自由記述）

- ファブリケータやシャーリングメーカーの精度管理方法、体制が整っている場合。（試験や管理実績があればなお良い）
- 試験を行い問題ない事を確認して採用
- JASS6に記載がある懸念事項が解決できれば
- 実績などの確認
- JASS6の準拠
- 管理体制の確認
- 溶損の向きや厚板の場合の加工精度への影響を確認したい

◆不採用の理由は？（自由記述）

- ファブリケータやシャーリングメーカーの精度管理方法、体制が整っていない場合
- 溶損部を踏まえた孔径の精度管理が今のところ難しいと考えるから。

◆備考（自由記述）

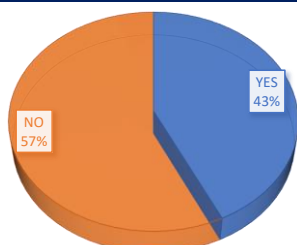
- 採用実績は個人としてはないが、事務所としては小梁GPLで12mm以下で採用実績あり。
- 採用実績の提示や実験結果の提示等、設計者に理解してもらう努力が必要（設計者は勉強が必要）
JASS6に追記されたから無条件で採用したいでは少し弱い
- 板材加工の業者次第か
- 板厚12mm以下で採用の検討したが不採用とした
- レーザー孔を開ける溶断会社の技能者にレーザーの知識が有か否かで決まるのでは。
その時も切断と同時に孔を明けてくるので早い？

■■鋼構造におけるレーザー孔明けに関するアンケート■■ (鉄骨ファブリーケーター)

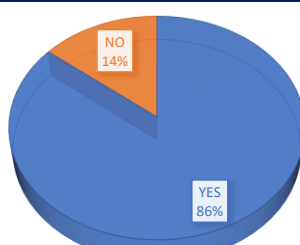
【調査期間】 2021年10月29日～2021年11月12日

【調査対象】 Hグレード 7社、Mグレード 6社、Rグレード 1社

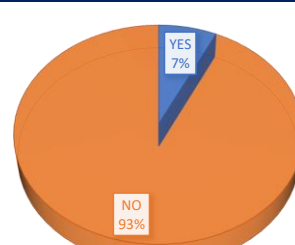
Q1.ドリル孔空けを自社で行うか？



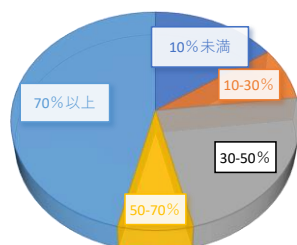
Q2.レーザー孔を採用した事があるか？



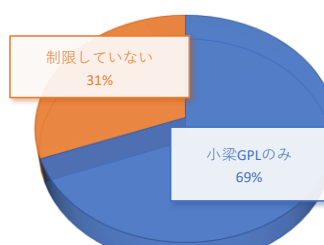
Q3.レーザー孔明けを主に自社で行うか？



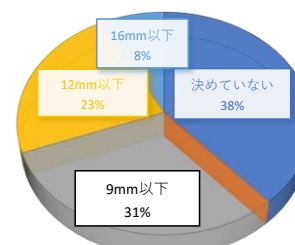
Q4.採用している物件の割合は？



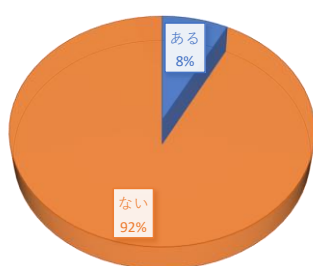
Q5.採用部位に制限はあるか？



Q6.最大板厚を社内で決めているか？



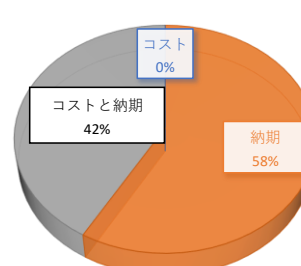
Q7.施工試験を実施した事はあるか？



Q8.今後レーザー孔を採用したいか？



Q9.採用するメリットは？



◆備考（自由意見）

- ファブに限った事ではないと思いますが、人材確保も難しくなっている状況です。
納期を短縮できる部分で、この先レーザーの精度等も向上していくと思いますので、
ファブとしては積極的に採用して頂きたいと思っています。
- 機械化、自動化が不可避な世の中では、レーザー孔の普及に逆うことができないと考えています。
- 構造図にJASS6に準ずると記載があると承認願いの提出が必須になる為、
レーザー孔不可もしくは何mm以下はOK等の記載を仕様書に入れて頂けるとありがたいです。
- 基本自社で切板から穴あけをしているのであまりこだわりは無いが、物によっては使い分けた方がいいと思います。
- 小梁GPLの取り扱い、板厚12mmまで。
- 今後ますます技術開発が進むと思いますので採用機会は増えると思います
- 9mm以下のGPLで採用

以上